

声に感じる地元愛

7年C組 担任

車で15分。わたしは毎朝ラジオを聞きながら学校に通っています。ある日のことですが、何気なく聞いていると、福井市美山町在住の方と電話がつながり、10月の最終週に行われる「そばまつり in みやま」が紹介されていました。「何軒ものそば屋さんが出店するので食べ比べができますし、その他にも団子などいろいろな美味しいものがありますよ〜。」年季の入った地元の方の声がわたしの食欲をそそるとともに、福井の秋を象徴するそば畑の風景のイメージが広がりました。

さて、もう8年前のことになりますが、わたしもひょんなことから地元である大野市の広報番組を制作する機会をいただき、契約社員として福井のラジオ局で働いていたことがあります。番組制作のいろはも分かっていなかった若者3人がチームとなり、毎週火曜日、午後1時から放送される55分間の番組を作っていくプロジェクトでした。大野の素材を生かしながらもものづくりをされている方々を紹介する『大野こだわり人』など、いくつかのレギュラーコーナーを作り、大野で暮らす人の声や自然の音を発信していきました。また、機材を担いで日本百名山の荒島岳に登ったり、実際にもみじや楓で彩られる九頭竜峡をドライブしながら、旅番組風に名所や名産品を紹介したりすることもありました。一方で、番組制作には毎週締め切りというものがあり、絶対に遅れることができないというプレッシャーが重くのし掛かりました。取材先を見つけ、アポを取って現地に向かい、打ち合わせをしたあと、インタビューかつ録音をさせてもらいます。もちろん、囁んだり、雑音が入ったりしたところは止めて撮り直しをします。会社に帰ってくると、すぐにパソコンで編集し、前後に挟むコメントの原稿を書き足します。最後にスタジオでの録音です。ついうっかり出てしまう大野弁に、アナウンサーの上司から何度も熱のこもった指導が入りました。

この仕事の中で何が最も楽しかったかと聞かれると、わたしは間違いなくインタビュー取材と答えると思います。当時、わたしは実家から会社に通っていたので、取材のある日は大野と福井を1日2往復していました。

次頁へ

しかし、それでも大野に取材に出かけるのは本当に楽しみで、生まれ育った故郷なのですが、まるでどこか違うところを訪れているような感覚でした。1年間の番組制作を通して、人やものなど、いったいどれだけの新たな出会いがあったことでしょうか。また、普段、目や口にしていたものでも、実際にそこに携わる人を介して語られることで、見方や考え方が変わったということもたくさんありました。そして何より地元のことがもっと好きになりました。

文化祭での発表を経て、みなさんの学年プロジェクト“Happy World in the Future”もさらに大きく動き出そうとしています。「幸福度 No.1」の理由を知るために、基準を決めた人や県庁の担当者にインタビューしてみてもどうか、幸せについての質問は急にインタビューされても答えにくいので、互いの考えをじっくり話し合えるフォーラムを開いてみるかどうかなど、実際に人の声を集めてみようとする提案が増えてきました。人の声に表れる思いや考えというのは、わたしたちの視野を広げ、思考を深めてくれます。そこに、今後のプロジェクトの方向性を決めるヒントが必ずあることでしょう！



秋季新人大会 壮行会 10/4

各部活動とともに新チームで臨む初めての公式大会です。キャプテンを中心にこれまでの練習の成果を十分に発揮することを目標としました。また、新たな課題も見いだしました。



サッカー部



女子バレー部



男子ソフトテニス部



女子卓球部



男子バレー部



女子ソフトテニス部



男子卓球部



全校円陣で附族の気持ちをひとつにします。

立会演説会 10/10



後期生徒会執行部役員選挙
が行われました。演説の内容
について、活発に意見交換や
提案がなされました。



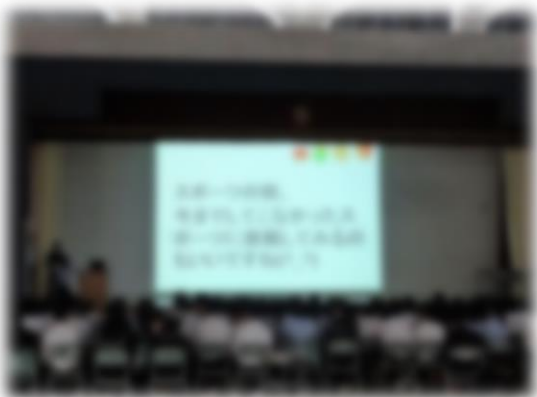


附族タイム・学校校保健委員会 10/17



保健委員を中心に、「睡眠・恋愛・スポーツ」のテーマのもと、ステージ発表をしました。

途中、アームレスリングは大いに盛り上がりました。自分の心と体の向き合い方を様々な面から学ぶことができたようです。この後、保護者対象の学校保健委員会も開かれました。



学校医の先生から、思春期のころとからだについてのお話を聴きました。

※詳しくは「保健室より」のページに掲載されています。



後期委員会決め 10/28



後期がスタートし、生徒会の組織が決まりました。各クラスの委員も選出されました。



後期生徒委員



A組

B組

C組